

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-145	高等学校	家庭	家庭総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家総 007-901	新家庭総合		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	・基礎的・基本的な知識・技能の修得のために、基礎的教材を豊富に盛り込んだ。 ・本文中の重要語句は色下線付きの太文字とし、側注に用語説明などを入れるなどし、基礎的な知識の定着を図った。 ・さまざまなActivityや実践活動・実験などを通して、真理を求める態度を養えるようにした。 ・人との関係における課題や実践活動、今の社会状況およびこれからの社会を考える教材によって、豊かな情操と道徳心を培うことができるようにした。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	・各節の導入ワークにより、自主的に学習する態度を培い、そこから知識を習得し、自主的・自律的に生活における課題を解決しようとする精神を養えるようにした。 ・生活課題を見出し、それを解決するための方法を自ら考え、生活をよりよくしようとする力をつけることができるようにした。 ・今の自分を見つめ、自己の適性などを考えることによって、将来の職業について考え、合わせて生活に必要な労働の意義について学び、働くことの重要性を認識できるようにした。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	・社会のなかで生きるすべての世代の人とのかかわりを持ち、また、社会の動きを知ることで、男女の平等や公共の精神を養うことができるようにした。 ・多様な価値観を認めあうことができるよう、多様なイラスト・写真で展開し、教材にも配慮した。 ・調理実習や実践学習などについては、グループで取り組むことを念頭に置き、他者と協力する態度を養えるようにした。 ・グループ学習などにおいては、他者の考えを聞き、理解しようとする態度が身につけられるようにした。 ・生活に関する法律や制度などを盛り込み、法律の意味や成り立ちなどを理解することで、次代の発展に寄与できるような態度を身につけられるようにした。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	・人の誕生・発達や老いを学ぶことによって、命を尊ぶ態度を養うことができるようにした。 ・私たちが営む生活と環境とのかかわりについて学び、生命尊重、環境保全の行動に自ら積極的に参画する態度を養えるようにした。

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	・先人から受け継がれてきた今の生活に息づいている伝統や文化を知り、それらが自分たちの生活を豊かにしているものであることを実感できるようにした。 ・他国の文化を知ることによって、自分たちの住む国や地域のみならず、他国への尊重の精神を培うことができるようにした。 ・日本と他国の生活様式などを比較したり、他国の制度などを学んだりする中で、国際的視点を持つことができるようにした。
--	---

2. 対照表

●全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
未来を築く ～SDGsと家庭科～	・生活（家庭科の学習）と持続可能な社会とのかかわりを考えることによって、国際社会の平和と発展に寄与しようとする意欲が持てるようにした（第5号）。	前見返し④～p. 1
生活課題を解決しよう	・生活課題の解決のために、主体的にとりくむことができるように、課題解決の方法と実践例を盛り込んだ（第2号）。また、そこでは、人を尊重し、協力して生活課題を解決する態度も身につけられるような記述も盛り込んだ（第3号）。	p. 2～7
とびら	・各章のとびらは、その章を構成する節を学習内容ごとにまとめ、何を学習するのかを示すことで、学習の見通しをつけられるようにした（第1号）。 ・中学校で学ぶ内容をキーワードとして示すことで、学習つながりを持たせ、深く理解できるようにした（第1号）。	p. 13, 43, 75, 103, 167, 209, 239
各節の導入（Start Activity）	・単元の冒頭に「投げかけ」を行うことによって、学習に向かう意欲を喚起させ、主体的にかつ意欲的に学習に取り組むことができるようにした（第2号）。	p. 14, 44, 76, 92, 104, 168, 210, 240, 258 など各節全般
ActivityやCheck	・学習した基礎的な知識の定着から幅広い知識や教養へと発展させることができるよう実践的な学習を随所に盛り込んだ（第1号）。また、自分で考え、自分で将来を切り開いていく自立・自律の精神を養うことも念頭においた（第2号）。	p. 15, 18, 20, 21, 29, 32, 33など各章全般
Trend Topic	・現在社会における3つのトピックをとりあげ、学習要素をまとめ、より深く考えられるようにした（第2号）。	p. 22, 226, 266
実践コーナー	・身近な題材をとりあげ、自立・自律的に生活課題を解決しようとする力を身につけられるようにした（第1号）。さらに、グループ学習などにおいて、他者と協力して、社会をよりよくしていこうとする力を身につけられるようにした（第2号）。	p. 36, 70, 98, 162, 204, 234, 268など
Cross Activity	・教科や分野横断的なテーマを取り扱うことによって、幅広い知識・教養を身につけるとともに（第1号）、他者や社会とのかかわりに目を向けられるようにし、主体的に社会の形成に参画して、よりよい社会をつくっていかうとする態度を養えるようにした（第3号）。また、職業についてのテーマもとりあげ、勤労を重んじる態度が身につけられるようにした（第2号）。 ・日本の生活文化をテーマとしてとりあげ、日本や郷土を愛する精神を養えるようにした（第5号）	p. 38, 72, 100, 164, 206, 236, 270など

ひとり立ちへのSTEP	・幅広い知識を身につけることによって、社会の一員として自立・自律して生活していく力を身につけられるようにした（第2号）。	p. 278～285
情報BOX	・幅広い知識と教養を身につけるために（第1号）、本文で学んだ内容を更に活用して考える「情報BOX」を扱った。	p. 14, 16, 18, 20 など 全般
本文中のゴシック体と色下線	・学習上で重要な用語についてはゴシック体とし色下線を付すことによって強調し、あわせて丁寧な定義や説明を記述することで、幅広い知識と教養の定着に資するようにした（第1号）。	p. 14, 16など全般
分野横断マーク 教科横断マーク	・分野を扱った章に限定しない内容については、関連する他の分野を明示するマークをつけ、さらに他教科の学習とも関連して学習できるようにした。	p. 44, 57, 58, 72, 95, 105 など全般

●章ごとの特色

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
1章	自分らしい生き方と家族	自分の今と将来を見つめ、自分の将来設計を見通す学習において、個人の価値を尊重し、自己の能力を伸ばすとともに、自主・自立の精神を養うことができるようにした（第2号）。	p. 14～17
		自立して生きることとは、男女の関係、家族との関係、社会情勢との関係の中で成し遂げられ、自分だけでなく他者に対しても大切に思う気持ちが重要である。そのような態度を身につけられるよう記述した（第1号、第3号、第4号）。	p. 18～23
		生きていく上で、家事労働や職業労働が重要であることを述べ、それらの意義を考えることによって、勤労を重んずる態度を養えるようにした（第2号）。	p. 24～27, 38～41
		男女がともに協力して家庭や地域、社会をつくっていくという男女共同参画社会の視点を盛り込んだ（第3号）。	p. 20～21
2章	子どもとかかわる	子どもの発達・発育の基礎的な知識を学ぶことにより、生命を大切にすることを養うことができるようにした（第4号）。	p. 44～61
		子どもとかかわるという学習を通して、子どもを理解しようとし、社会に生きる一員である子どもに対してどのような対応をしたらよいのかを考えることができるような教材を選択した（第1号、第3号）。	p. 62～65
3章	高齢者とかかわる	高齢社会の現状やこれから日本が直面する人口減少などの課題など、幅広い知識を身につけられるようにした（第1号）。	p. 76～77, p. 90～91
		高齢者とかかわり、高齢者の心身の状況や生活を理解することにより、他者への敬愛の気持ちを養えるようにするとともに、さまざまな実践活動を通して命を大切に思う気持ちを育むことができるようにした（第3号、第4号）。	p. 78～89
4章	社会とかかわる	自助・互助・共助・公助についての理解を深め、地域社会に生きる一人の構成員として、公共の精神を培い、他者を思いやり、地域社会をよりよくしようとする態度を身につけられるような内容とした（第1号、第3号、第4号）。	p. 92～97

5章	食生活をつくる	先人から受け継がれた日本の食の文化を学ぶことにより、また、他国における食の習慣や歴史的・文化的背景を知ることによって、日本や郷土への関心や思いを深め、他国の文化を尊重する態度を養えるようにした（第5号）。	p. 104～111
		食生活を営むにあたって、栄養・調理の基礎的な知識を得、実生活においてその知識を実践にいかせるようにした（第1号）。	p. 112～143
		自分たちが日々営む食生活と環境とのかかわりを考えることによって、世界との関係、食物の生産者や自然に対する理解を深められるようにした（第4号）。	p. 158～161
		グループで学習する調理実習などを通して、他者と協力する精神を養えるようにした（第3号）。	p. 144～157
6章	衣生活をつくる	人類が衣服を着用するに至った歴史や、気候・風土と衣服との関係などを学習することにより、日本や世界の衣文化を大切にすることを養えるようにした（第5号）。	p. 168～171
		繊維の知識、衣生活における管理の知識などを習得することにより、自らの衣生活をよりよいものにしようとする力を養えるようにした（第1号）。	p. 172～183
		和服の文化を学ぶことによって、日本に受け継がれている伝統を愛する心を養えるようにした。また、日本の文化・伝統を知することは、他国の人たちとの交流にもつながり、国際社会の平和や発展に寄与できると考え記述した（第5号）。	p. 186～189
		自分たちの衣生活と環境がどのようにかかわっているのか、環境保全のために衣生活分野でどのような対策が現在とられているかを学習し、環境の保全に取り組む態度を養えるようにした（第4号）。	p. 184～185
		衣服製作実習においては、自主的に取り組みが行えるよう工程を丁寧に記載した。また、創造的に取り組めるような教材も盛り込んだ（第2号）。	p. 190～203
7章	住生活をつくる	日本の住生活の変遷や特徴、今も受け継がれている和室の構成や、世界の住居の気候・風土との関係を学ぶことによって、それぞれの国で育まれてきた文化を尊重する心を養えるようにした（第5号）。	p. 210～215
		生活と住空間の関係や平面図を理解することにより、自主的によりよい住生活について考え、創造できるようにした（第2号）。	p. 216～219
		住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫した（第1号）。	p. 220～229
		住まいと環境とのかかわりを学習することによって、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を身につけられるようにした（第4号）。	p. 230～233
8章	消費行動を考える	消費者としての意思決定や契約の基礎知識を学習することにより、自立した消費者として生活していく力をつけられるようにした（第2号）。	p. 240～251
		自分たちの消費行動と環境とのかかわりを学ぶことにより、環境への関心を持つとともに、環境の保全や自然との共生について考え、次代をつくる社会の一員として環境課題に向き合えるようにした（第4号）。	p. 252～257

9 章	経済的に自立する	家計と日本の経済, 国際経済とのかかわりなど, 経済のしくみの基礎的な知識と教養を身につけられるようにした (第1号)。	p. 258～263
		生活を営む上での家計の管理や経済計画の重要性を学び, 将来の経済設計に向けて, 主体的に学習に取り組むことができるような教材を選択した (第2号)。	p. 264～267

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため, 以下の点に留意し, 本書を編修した。

一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて, 豊かな人間性, 創造性及び健やかな身体を養い, 国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	・ 高等学校の学習内容を理解するために必要な基本的な知識については, 各章のとびらで中学校での学習内容をキーワードとして掲載し, 知識の確実な定着を図り, 実践的な学習につなげられるようにした。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき, 個性に応じて将来の進路を決定させ, 一般的な教養を高め, 専門的な知識, 技術及び技能を習得させること。	・ 自分の将来や職業を考えることは「社会の一員」であることを自覚することでもある。自分を客観的に見つめることと同時に自分と社会とのつながりを自覚できるような教材を盛り込んだ。 ・ 現在の生活における課題に気づき, その課題解決のために, より専門的な知識や技術を習得しようとする姿勢を身につけられるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに, 社会について, 広く深い理解と健全な批判力を養い, 社会の発展に寄与する態度を養うこと。	・ 自分の生活や将来について考えるとともに, 社会状況などについて理解し, よりよい社会を創造していこうとする態度を養えるような内容とした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-145	高等学校	家庭	家庭総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家総 007-901	新家庭総合		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●全体的な配慮と特色

(1) 生活の場からの「気づき」を大切にし、その「気づき」から課題を発見し、今の生活、将来の生活を「自立」して「築いていく」力をつけることを基本におき、そのメッセージを前書きに記載した。また、生活課題を発見し解決していくための学習方法を「生活課題を解決しよう」で丁寧に取り扱った。

(2) 実践活動においては、節の導入の「Start Activity」、本文中に「Activity」、節末の「Check」、章末の「実践コーナー」を設け、「気づく」「実践する」「検証する」という学びが確立できるようにした。

(3) 日々の生活は、家庭科で学ぶすべての分野が交錯して成り立っている。そこで、「Cross Activity」を設け、分野を限定しない実践活動が行えるようにした。あわせて他の教科で学ぶ内容を踏まえて学習することで、相互の理解をより深められるようにした。

(4) 随所に Column を設け、本文とかかわる事例や現代的な話題をとりあげ、より学習が深められるようにした。

(5) 各節末の Check と章末問題により学習の定着を図った。

(6) 巻末の「ひとり立ちへの STEP」では、「ひとり立ち」するための必要な具体的知識を掲載し、「自立」にむけての一つの教材として取り扱った。

(7) SDGs については、家庭科とのかかわりが理解できるような内容を冒頭に掲載し、関連する項目については、それぞれの章の該当箇所にマークや説明など入れた。

(8) 各所に配置した二次元コードから、学習の理解を深めるために役立つ動画・シミュレーションにアクセスできるほか、学習に関連した Web サイトへのリンクも掲載した。

●具体的な配慮と特色

第1章 自分らしい生き方と家族

人生100年時代と言われる今日、各ライフステージのイベントなどを、自分の意志で主体的に選択し、決定していくことが重要であることを記述した。また、「自分」を見つめることと同時に「他者」「社会」とのかかわりも含めて生活設計を行うことの大切さも気づくことができるような内容とした。

また家族のあり方、働き方など多様化する社会において、主体的にライフキャリアを展望していくことの大切さを述べた。家庭や家族関係における課題を発見し、解決にむけてとりくむとともに、社会の動きや制度（民法や法律）などを記述し、個々の生き方が社会とかかわっていることが理解できるような内容とした。

第2章 子どもとかかわる

子どもは「他者とかかわりあいの中で発達していくこと」を中心に据えて記述し、情緒・コミュニケ

ーション・認識などの発達、身体の発育などは、それぞれ相互にかかわっていることが理解できるような内容とした。また、Start Activity における子どもに関する投げかけや保育園実習などを通して、高校生が子どもを身近に感じ、興味を持って学習できるようにした。

第3章 高齢者とのかかわる

高齢社会の現状を客観的に知ることから、現在の日本のおかれた状況についての知識を深められるようにした。さらに、高齢者の生活や身体状況を学び、介護予防や介助などの実習・実践活動を通して高齢者への理解を深められるようにした。

第4章 社会とのかかわる

社会の一員として自分たちが参画して地域社会をつくっていくことの大切さを中心に置き、記述した。

第5章 食生活をつくる

それぞれの地域で培われてきた食文化を学び、今の自分たちの「食」とどうつながっているのかを興味を持って学習できるような教材を選択した。また、家族の食生活を計画・管理し、自立した食生活をつくっていくために、栄養・食品や食品衛生などの基礎的な知識、調理技術を習得できるような内容とした。さらに、自分たちの食生活と環境とのつながりについても、主体的に解決しようとする意欲を喚起させるような内容とした。

調理実習については、献立形式、単品形式、食文化を盛り込んだ題材など、豊富に掲載し、授業実態に応じた選択ができるようにした。また実習に用いる食材を中心とした食品成分表（抜粋）を掲載した。

第6章 衣生活をつくる

衣服の機能、素材、購入から管理方法などについての知識を習得し、自立した衣生活がつけられるような内容とした。また、和服については、その文化を知ることから、実際に着ることまでを想定した内容とした。衣服製作実習については、立体構成（ハーフパンツ）、平面構成（じんべい）を取り上げ、工程をわかりやすく記載した。また、生徒の学習経験に応じた利用ができるよう、衣服管理・衣服製作に必要な手縫いやミシンの扱い方も掲載した。

第7章 住生活をつくる

住まいは人の生活を支える軸となる一つであることが理解できるように、本文・Columnなどで随所に住まいの重要性について記載した。また、平面計画などについては、現在の多様化する家族関係や住まい方などにもふれ、住まいや住まい方の変化も理解できるようにした。

住まいの安全については、防災・減災を意識した備えや対応方法について特集としてまとめた。

第8章 消費行動を考える

情報があふれる現代社会において、ひとりの消費者として情報を選択し、意思決定していくことの大切さを記述した。また、グローバル化などによる流通の変化や、販売方法・支払い方法の多様化に対応できる行動がとれるように、さらに制度などの知識を習得し、自立した消費生活を送れるよう具体的な資料を取り上げた。

環境については、持続可能な社会をつくっていくために、自分たちでできることは何かを主体的に考えられる教材を選択した。

第9章 経済的に自立する

経済のしくみの基本的な知識を習得し、現在の家計管理、これからの人生と関連させた経済設計などを主体的に考えていくことができるような内容とした。さらに将来のマネープランの選択肢として、金融商品の基本的な知識を取りあげた。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
生活課題を解決しよう	①よりよい生活をめざすための課題解決	D ア, イ	p. 2	4
	②ホームプロジェクトと学校クラブ活動	D ア, イ	p. 3～7	
第1章 自分らしい生き方と家族	1節 自分の未来予想図を描こう～生涯発達と発達課題	A (1) ア (ア)	p. 14～17	1 6
	2節 自立と共生	A (2) ア (ア) , イ	p. 18～23	
	3節 ライフキャリアを見つめ直す	A (2) ア (ア)	p. 24～27	
	4節 共に生きる家族	A (2) ア (イ) , イ	p. 28～31	
	5節 家族に関する法律	A (2) ア (イ)	p. 32～35	
第2章 子どもとかかわる	1節 子どもとは	A (3) ア (ア) , (イ)	p. 44～47	2 0
	2節 子どもの発達	A (3) ア (ア)	p. 48～55	
	3節 子どもの生活	A (3) ア (ア)	p. 56～61	
	4節 子どもをはぐくむ	A (3) ア (ア) , (イ)	p. 62～65	
	5節 子どものための社会福祉	A (3) イ	p. 66～69	
第3章 高齢者とかかわる	1節 高齢社会に生きる	A (4) ア (イ)	p. 76～77	1 2
	2節 高齢者を知る	A (4) ア (ア)	p. 78～83	
	3節 高齢者の自立を支える	A (4) ア (ア)	p. 84～89	
	4節 高齢社会を支えるしくみ	A (4) イ	p. 90～91	
第4章 社会とかかわる	1節 支えあって生きる	A (5) ア (ア)	p. 92～93	8
	2節 共生社会を生きる	A (5) ア (イ) , イ	p. 94～97	
第5章 食生活をつくる	1節 人と食物のかかわり	B (1) ア (ア) , イ	p. 104～107	2 4
	2節 私たちの食生活	B (1) ア (イ)	p. 108～111	
	3節 栄養と食品のかかわり	B (1) ア (イ)	p. 112～121	
	4節 食品の選び方と安全	B (1) ア (ウ)	p. 122～125	
	5節 食事の計画と調理	B (1) ア (イ) , (ウ)	p. 126～157	
	6節 これからの食生活を考える	B (1) イ	p. 158～161	
第6章 衣生活をつくる	1節 人と衣服のかかわり	B (2) ア (ア) , (イ)	p. 168～171	2 2
	2節 衣服の素材の種類と特徴	B (2) ア (ウ)	p. 172～177	
	3節 衣服の選択から管理まで	B (2) ア (イ) (ウ)	p. 178～183	
	4節 持続可能な衣生活をつくる	B (2) (イ)	p. 184～185	
	5節 私たちがつなぐ衣生活の文化	B (2) ア (ア) , (イ)	p. 186～189	
	6節 衣服をつくろう	B (2) ア (ウ)	p. 190～203	
第7章 住生活をつくる	1節 人間と住まい	B (3) ア (ア)	p. 210～211	1 4
	2節 住まいの文化	B (3) ア (ア)	p. 212～215	
	3節 住まいを計画する	B (3) ア (イ)	p. 216～219	
	4節 健康に配慮した快適な室内環境	B (3) ア (イ)	p. 220～223	
	5節 安全な住まい	B (3) イ	p. 224～229	
	6節 持続可能な住まいづくり	B (3) イ	p. 230～233	
第8章 消費行動を考える	1節 消費行動と意思決定	C (2) ア (ア) , イ	p. 240～241	1 4
	2節 消費生活の現状と課題	C (2) ア (ア)	p. 242～247	
	3節 消費者の権利と責任	C (2) ア (イ)	p. 248～251	
	4節 ライフスタイルと環境	C (3) ア, イ	p. 252～257	
第9章 経済的に自立する	1節 暮らしと経済	C (1) ア (ア)	p. 258～263	6
	2節 将来のライフプランニング	C (1) ア (ア) , イ	p. 264～267	
			計	140

(備考) 配当時間については、履修単位を4単位として各章の授業時間数を示した。